

年頭のごあいさつ



乙巳

坂城町長 山村弘

明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

今年の干支は乙巳(いつし きのと・み)の年です。「乙」は草木の芽が曲がりくねった様子、「巳」は動物を表す象形文字にあたり、今まで冬眠をしていた動物が地上活動を始め、従来の因習的生活に終わりを告げることを指します。その意味で、「乙巳」は様々な抵抗勢力に対して従来の関係に拘らず、けりを付ける年にしなければならないのではないかという意味が込められていると言われています。

ここ数年は、「大転換の時代」と言われて来ましたが、未だに物事が解決に至らず、さらに混迷を深めている情勢のなか、各々の立場で決然と新たな取り組みを開始しなければなら

らないものと考えております。

さて、昨年を振り返りますと、元日夕方、能登半島沖を震源とした能登半島地震が、翌2日には、羽田空港滑走路において、民間旅客機と海上保安庁航空機が衝突する大惨事が発生し、波乱の年明けとなりました。

特に能登半島地震におきましては、地震の規模がマグニチュード「7.6」、観測された最大震度は「7」という大規模なものであり、地震の影響により広範囲で家屋等の倒壊に加え、火災、津波などが重なる大災害となりました。多大な被害を受けられた皆様に心より哀悼の誠を捧げます。

こうした状況を踏まえ、町総合防災訓練では、村上地区を対象に大型地震を想定した情報伝達や避難所設営訓練等を実施しました。訓練を通じて、常日頃からの備えに対する重要性に加え、有事の際の冷静な判断と慎重な行動に即応する機会になったものと考えています。

交通インフラでは、国道18号坂城インターチェンジ入口交差点から町道A09号線区間が開通し、交通の円滑化が図られました。将来的には、国道18号バイパスへの接続により、坂城インターチェンジ間のアクセスが飛躍的に向上し、混雑緩和や産業面の活性化のほか、交通ネットワークの複層化にもつながることから、引き続き、国、県に対し、事業区間の早期供用開始と未事業化区間の早期着

手を要望していきます。

文化センターでは、耐震補強及び大規模改修工事が完了し、施設の安全性はもちろん、長寿命化と利便性の向上により、今まで以上に文化・教養・交流活動の発展が見込まれるほか、太陽光発電と蓄電設備により、中核避難所としての機能強化にも貢献するものと考えています。

また、一昨年改修を終えた町体育館が、近代建築の記録・保存を目的とする国際的学術組織DOCOMOMO日本支部による「日本におけるモダン・ムーブメントの建築290選」に選定されました。年月を経てもオリジナルの建築的価値を残していることや、建築当時に技術的な革新性を有し、現状使用される中でその価値が継承されていることが高く評価され、文化センターのリニューアルと時を同じく評価されたことで貴重な建築物を大切に保存・利用する意義や当時の人々が施設に込めた想いを強く感じる次第であります。

一方、新複合施設につきましては、今年度、基本設計を実施しており、利用者の方などを中心にワークショップによる意見集約と設計への反映を進め、3月頃には皆様に設計内容を説明させていただく予定です。

国際的な場面におきましては、これまでコロナ禍で中断していた高校生タイ国研修や坂城中学生海外派遣事業が実施され、将来を担う子ども

達に国際感覚の醸成とともに自国を再認識していただけたものと考えています。

10月には、ポーランドを町の代表団が訪問し、坂城町とツェレスティヌフ郡及び双方の国際交流協会の4者による「フレンドシップ協定に関する合意書」の調印を執り行いました。これまでの交流を踏まえた相互発展と友好関係が様々な分野で更に深まることを願っています。

2050年ゼロカーボンに向けた取り組みとしましては、町内公共施設など7か所に電気自動車充電のインフラ整備や、さかきテクノセンターにおける建物のエネルギーを75%以上削減する施設改修事業(ニアリーゼン)の実施のほか、びんぐし湯さん館の太陽光発電設備による温室効果ガスの排出削減の取り組みを行っています。

また昨年は、町内3小学校が創立150周年を迎え、記念事業実行委員会を中心に、各種事業が展開され、各校の歴史に新たなページが刻まれたことを大変喜ばしく感じています。冒頭申し上げましたとおり、本年は各々が新たな取り組みをするために、大きな一歩を踏み出すことが求められておりますことから、皆様と共に鋭意努力してまいります。

町民の皆様におかれましては、本年が良き年になりますようお祈りし、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和7年 2025 迎春



坂城町議会議長
滝沢幸映

新春を寿ぎ、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては清々しく、希望に満ちた令和7年の新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年1月1日に「令和6年能登半島地震」が発生し、その被害は奥能登を中心に広がり、多くの方が犠牲になりました。あの日から1年が経過しましたが、今なお、避難生活を余儀なくされている方も多く、ここに哀悼の念を捧げるとともに、お見舞い申し上げる次第です。

各インフラへの被害も甚大で、復旧・復興が進められていた矢先、9月には「令和6年奥能登豪雨」に見舞われ、ふたたび大きな災害につなが

りました。二重の被害に遭われた方も多く、今後も国や県のみならず、民間を含めた関係機関による、速やかな支援と継続的な支援の必要性を痛感しております。

世界では多くの地域で武力衝突・紛争がいまだに続き、多くの子ども達を含め、一般市民の方が犠牲となっています。世界は一刻も早く和平への道筋を探らなければなりません。

その中で、10月「日本原水爆被害者団体協議会」にノーベル平和賞が受賞されたことは朗報であります。戦争のない、核兵器もない世界の実現に向け、核廃絶運動を長きに渡りご尽力いただきましたことに対し、衷心より敬意を表するところです。

議会報では編集後記を「平和」として、委員それぞれの思いや考えを、この一文に託しております。私達は今、国境を越えて「平和」の実現に向け、心をひとつにする時であると思っています。

議会活動に目を向けますと、1月に坂城中学校3年生による模擬議会が議場にて行われました。登壇した6名の生徒さんが町の施策についての質問をし、町長、担当課長が答弁するという実際の町議会と同じ形式で行われました。生徒さんの落着いて堂々とした姿勢による充実した質

問内容は、町執行部に十分に伝わったと思います。今後もこの体験を通して、行政・議会に関心を持っていたければ幸いです。

10月には、これまでの懸案でありました坂城町とポーランドツェレスティヌフ郡及び両国際交流協会の4者による「フрендシップ協定に関する合意書」の調印式が、ポーランドの日本国大使館で執り行われ、町議会からは中嶋登副議長が山村町長ほか関係者とともに訪問いたしました。この協定は住民間での友好、親善を主な目的として、緩やかな関係性を築いていくものであります。今後の国際交流の取り組みに期待します。

11月には、5年ぶりに「町民と議員との意見交換会」を開催いたしました。幅広い多くの年代の方にご参加いただき、「人口減少」「公共施設」「防災」「福祉」をテーマに活発な意見交換が行われ、今後の議会活動を進めるにあたり、有意義な会になりました。参加された皆様にはお礼申し上げます。

議会改革においては「議会基本条例」制定について、専門家講師による研修、千曲市議会では制定までの経緯を学ばせていただき、「タブレット端末」導入に向けては、長和町議会での活用状況の視察を行いました。そ

して、11月の町議会議員全員協議会において承認を受けたことにより、今後スケジュール等具体的に取り組んで参ります。

昨年は町内3小学校が創立150年という大きな節目の年を迎え、小学校毎に工夫された記念式典が開催されました。子ども達の成長のために、今後も関係機関が連携する中で、教育環境の整備が更に求められます。

町では令和7年度に、新複合施設の実施設計を予定しています。

議会としても引き続き行政運営など、各事業が効率的・効果的に実施されるよう議論を継続して参ります。

結びに、本年が皆様にとって明るい話題にあふれ、幸多き年となりますようご祈念し、年頭のご挨拶いたします。

